

月寒公民館臨時講座

講座名	開講日	開講時間	定員	受講料費
①夏祭りをゆかたで! (ゆかた着付け講座)	6月24日(月)・27日(木) 〔全2回〕	午後6時30分～8時30分	15人	1,200円 なし
②ホーム Homeカクテルに挑戦!	7月2日(火)・5日(金) 〔全2回〕	午後1時～3時	20人	1,200円 1,000円

対象 区内にお住まいか、お勤めの15歳以上の方(中学・高校生を除く) 20歳以上の方。
申込日時・方法 は6月12日(水) は6月18日(火)のいずれも午前9時～午後5時の間に電話か公民館窓口へお申し込みください(先着順)。なお、定員に満たない場合は引き続き受け付けます。
受講料(材料費)の納入 は6月19日(水)午前9時～午後8時、は6月25日(火)午前9時～午後5時の間に月寒公民館窓口で納入してください。なお、納入された受講料はお返しできません。
会場 月寒公民館。
(申込先・詳細) 月寒公民館(月寒中央通7丁目) ☎851 0482



第30回 「中の島で行われていた天然氷の採取」の巻

～採氷から始まった中の島の製氷業～



寒い冬に行われていた天然氷の切り出し作業(昭和初期)

現在、氷は機械による生産が一般的ですが、区内の中の島地区では、大正末期から昭和初期にかけて、冬の間、池に張った氷を採取し、出荷していた時期がありました。

現在の中の島神社(豊中公園)の精進川沿いには、今は見られなくなつたものの、かつて、数カ所に池がありました。そこで山下友成氏が、天然の氷を採取していたのです。

厳しい寒さの中、池の氷を採る作業は、かなりの労力と工夫が必要でした。しかも、氷が厚くなるまでには長い期間を要するため、一冬に二回しか氷を採ることができなかったそうです。当時は保冷用の機械などはなかったため、切り取った氷は、解けてしまわないようにおがくずで包み、倉庫に保管していました。また、運搬には、主に馬

車を利用していました。時代の流れとともに、製氷の方法も変わり、山下氏は、昭和十二年、この地に工場を建設し、きれいな地下水をくみ上げて、札幌で初めて機械による製氷に着手しました。ここで作られた氷は、主に魚屋、飲食店、病院などに卸されていました。

昭和三十年、山下氏が製氷をやめると、その後を引き継ぐと市内の氷店が集まり、札幌製氷協同組合が設立されました。この組合では、地下をさらに深く掘り下げてきれいな水を確保し、大量生産できる体制を整え、出荷をしていました。

札幌製氷協同組合は、組合員が減ってしまったため、平成十二年に解散してしまいました。昭和二十八年ころから使われていた工場は、現在も残っています。ここでは、今年の二月まで別の会社が氷の生産を続けていましたが、現在は倉庫として使われ、製氷は別の場所で行っています。

同社の社長は、技術進歩により、作業の人手は減りましたが、製氷方法自体は、今も昔もそれほど変わっていないのですよ」と話してくれました。実は、この会社も、創業時には、中の島で天然氷を採取していたそうです。

広告欄